

安全確保、確認

まずは安全確保が最優先。作業は室内外の安全が確認できた後に始めましょう。

P.8

建物の撮影



被害の記録・保管は欠かせません。室内外の撮影や損失物品の記録を行いましょう。

P.8

荷物の搬出



濡れたものや被害を受けたものは、とにかく屋外へ搬出を。力仕事に加えて細かい作業も多く、とにかく人手が必要です。応援を呼びましょう。

P.8

室内の洗浄



室内の清掃は水と洗剤を用いて行います。大きな部分はデッキブラシと水切りモップでこすり、水で洗い流します。細部は大型スポンジで清掃します。

P.9



住宅における 水害対応マニュアル

浸水被害の備えから復旧まで

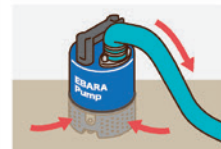
建物の確認と依頼



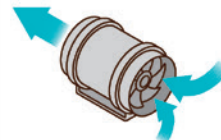
各種業者に依頼し、建物の状態や漏電・ガス漏れ、住宅設備の作動状況などを確認してもらいましょう。

P.9

床下の排水と乾燥



排水用ポンプを床下に設置し、たまった水を排水。



床下点検口を1か所だけ開け、ダクトファンを設置。床下乾燥を行います。

P.9,13



にちじょう そな
日常の備え防災用品以外の
準備も万全に

収納空間

防災用品

書類

ひ さい ま え
被災前

事前準備

物品移動

情報収集・避難

す い が い は っ せ い じ
水害発生時情報収集・
ヘルプ発信ひ さい ち ゅ く ご
被災 直後

安全確認

被害の記録

応急処置の準備



被災後

自分たちで
できること

安全確保、確認

建物の撮影

荷物の搬出

室内の洗浄

床下の乾燥

建物の確認と依頼(床上浸水の場合)

保険会社への連絡

おう き ゅ う し ょ ち
応急処置重要 5つの「やることリスト」に
同時に取掛かること

生活環境を整える

復旧に向けた取り組み

行政関係の手続き

建物の保険の手続き

車両保険の手続き

ふ っ き ゅ う こ う じ む
復旧工事に向けて応急処置の完了判断のための
建物診断と復旧工事の依頼

収支整理



被災時に役立つ住原の製品

被災現場作業の一例

はじめに

本マニュアル(以下:本誌)は、被災された方や復旧に携わる方が状況を把握し、「現在の段階」と「次に取り組むべき行動」を明確にできるよう支援することを目的としています。復旧作業の進め方や行政・保険に関する手続きについても、効率的に進めるためのポイントを整理しています。

実際に水害に遭遇すると、必要な対応やその優先順位を適切に判断することは難しく、場当たり的な対応に陥りがちです。

本誌では、過去の水害による家屋の被害記録や復旧作業の実体験を踏まえ、信州大学・中谷岳史先生の技術的監修のもと、水害対策および復旧のポイントを体系的にまとめました。

本誌は、被災者の方々はもちろん、復旧を支援する自治体やボランティア、水害リスクの高い地域にお住まいの方々など、多くの方にご活用いただける内容となっています。

本誌を通じて防災意識が高まり、万一被災した場合にも、地域やボランティア、社会と連携しながら、被災された方々が安全・安心な環境を早期に築く一助となることを願っています。



■発行／住原製作所

水・空気・熱などの流体を扱う産業機械メーカー。排水機場や建築設備向けのポンプや換気設備の製造、ごみ焼却施設の建設、さらには半導体製造装置の製造などを通じて、社会インフラや産業を支えています。創業の精神である「熱と誠」を掲げ、110年以上にわたり技術で世界を支え、社会の様々な「不」の解決に取り組んでいます。

■監修／信州大学 中谷岳史



建築環境工学を専門とする中谷岳史(なかや たかし)先生の研究室では、水害対応技術や気候変動への適応策を中心に研究・教育が行われています。本誌は、その知見と被災・復旧体験をもとに、中谷先生の監修により制作されました。

■イラストレーター／中井伶美

東京芸術大学および同大学院を修了。令和元年東日本台風を経験。写真洗浄のボランティアを通して中谷先生と出会い、それ以来、先生の研究を社会に伝えるイラストを多数制作されています。
<https://nakaireimy.com>

水害対応のポイント

本誌は、津波や土砂災害による全壊・倒壊などの大規模被害を除いた被災住宅を対象としています。水害からの復旧においては、建築技術者による専門的な診断と「住民」「事業者(建築会社・工務店)」「行政」の円滑な連携が不可欠です。特に住宅の復旧工事では、健康被害や建材の腐朽リスクに十分配慮した適切な対応が求められます。

誤った方法で作業を進めた結果、復旧費用が新築費用の半額近くに膨らんだり、工事に1年以上を要したり、カビが再発して長期避難を余儀なくされるなど、生活再建が困難になる事例も報告されています。

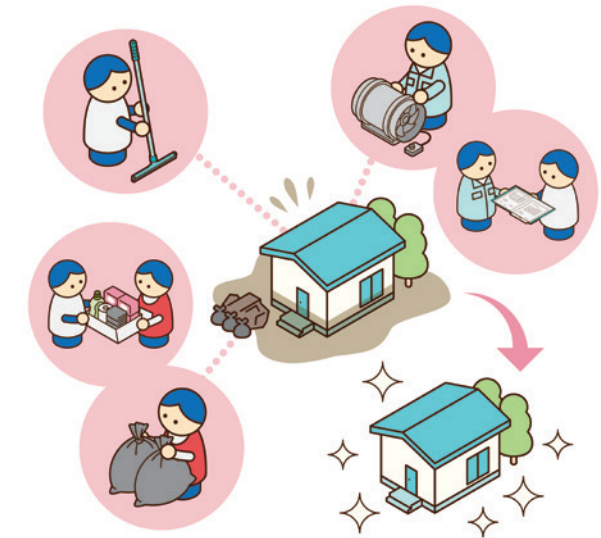
こうした課題を最小限に抑えるためには、被災直後から「基本的な生活環境の確保」と「適切な応急修理計画」の策定が重要です。利用可能な支援制度を有効に活用し、早期の生活再建につなげる体制を構築することが求められます。その際、被災後の生活面では「作業」「生活支援」「情報収集」、建築工事面では「応急処置」「復旧工事」に分け、それぞれ計画的に取り組む必要があります。

水害対応は、作業量が想像以上に多く、被災者同士で助け合うと作業に遅れが出てしまいます。「行政・住民・企業・

支援団体」が役割を分担し、連携して動くことが不可欠です。特にカビは浸水後48時間を過ぎると爆発的に増殖します。

標準的な住宅(1階60㎡程度)が床上浸水した場合、復旧に向けて1か月で50～100人程度の人員が必要となります。

また、被災後は心身にかかるストレスが大きく、すぐに疲労が出てきます。復旧作業は長期になるため、夜は十分に休み、周囲の人に頼りながら進めましょう。

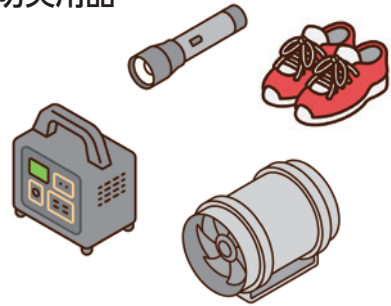


収納空間



- ✓ 日常の食料
- ✓ 保存食
- ✓ 調味料
- ✓ 衣類
- ✓ 嗜好品
- ✓ 衛生用品
- ✓ 救急箱

防災用品



- ✓ 靴
- ✓ 眼鏡
- ✓ 消毒薬
- ✓ 簡易トイレ
- ✓ ラジオ
- ✓ バッテリー
- ✓ ライト
- ✓ 充電ケーブル
- ✓ 作業用手袋
- ✓ 土嚢袋
- ✓ 水嚢袋
- ✓ ダクトファン
- ✓ 排水用ポンプ
- ✓ 清掃用品(高圧洗浄機・洗剤・大きめのスポンジなど)
- ✓ 延長ケーブル(ブレーカー付き・過電流防止付きケーブル)
- ✓ 食事
- ✓ 水
- ✓ 薬
- ✓ 現金
- ✓ マット
- ✓ 枕
- ✓ 手袋
- ✓ 雨具
- ✓ 帽子
- ✓ 持ち出し袋
- ✓ 携帯トイレ
- ✓ ゴミ箱

書類



- ✓ 預金通帳およびコピー
- ✓ 身分証明書(マイナンバーカードなど)
- ✓ 応急処置の連絡先(建築会社や建物・車の保険会社)
- ✓ 建物や車の保険証券控え
- ✓ 保険証
- ✓ お薬手帳
- ✓ 災害関連書類の記入例

備えておく日用品や保管する場所など

- 2階もしくは1階の浸水想定より高い位置に保管
- 分かりやすく、取り出しやすい場所に置く
- 保管場所は家族全員と共有
- 消耗品は消費期限を確認し、機械は動作を確認
- 季節ごとに必要なものを入れ替える
- 必要に応じて乳児用品・アレルギー対応食・介護食・ペット用品・生理用品も準備
- 災害時のストレスを緩和させるため、好みのレトルト食品・調味料・お菓子などの嗜好品も保管

応急処置の依頼先や手続き方法など

- 重要な書類は防水袋に入れ、水に濡れない場所に保管(持出袋に入れると良い)
- 連絡先を携帯電話とメモに控える(保険会社・建築会社・電気業者・ガス業者・家族・友人・知人)

安否確認手段と情報収集方法の確認

- ハザードマップで浸水や土砂崩れの予想位置を確認し、避難経路の計画立案
- 家族や周囲の人と連絡方法を確認(グループチャット・SNSなど)
- 防災情報：各自治体ウェブサイト



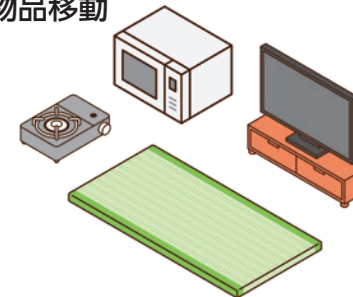
清掃用品も重要な
防災用品のひとつ

事前準備



- ✓ 1階の電気遮断
- ✓ ガスの元栓を閉める
- ✓ 水をためる
- ✓ 浸水時の動線確認(避難時の障害物除去)
- ✓ スマホなどのバッテリー充電

物品移動



- 1階から2階に移動
 - ✓ 日用品
 - ✓ 食料品
 - ✓ 調理器具
 - ✓ 靴
 - ✓ 衣服など
 - ✓ 貴重品
 - ✓ 現金
 - ✓ 高級品
 - ✓ 写真など
- 1階の荷物を少しでも高いところに移動
 - ✓ テレビ
 - ✓ パソコンなど
 - ✓ 畳
 - ✓ ふすま
 - ✓ 障子
 - ✓ カーペットなど

情報収集・避難



- 避難場所の判断
 - ✓ 避難所に水平避難
 - ✓ 自宅2階に垂直避難
- ✓ 車を高所へ移動

事前準備

- 日頃から定期的に排水路を清掃
- スマホやモバイルバッテリーを充電し、車に給油する
- 下水からの噴き出しを軽減するため、トイレに水嚢を置き、風呂・台所・洗面台に水を張る
- 分電盤のブレーカーを遮断する
- ガスの元栓とガスメーターの元栓、LPガスであれば容器バルブを閉める

物品移動

- 生活必需品や高価な物品は、なるべく室内の高い場所に移動させ、カーテンはくくって下部が濡れないようにする
- 防災用品を確認し、必要に応じて補充・追加
- 床下点検口の場所を確認しておく

情報収集・避難

- 自宅周辺の災害リスクを把握する
- ① ハザードマップの色分けされたリスク情報に、自宅が該当するか確認する
- ② 避難所までの経路に危険な場所がないか確認する
- ③ 安全な場所に住んでいる親戚や知人宅に避難できるか確認する(難しい場合は、自治体が開設する指定緊急避難場所に避難する)
- 家族・親戚・友人・近所の方と状況共有(当日の予定・避難行動)を行い、早めの避難を心がける
- 災害情報を収集し、夜間や災害が差し迫った状況ではより安全と思われる避難方法を選択
- 車は高額であり、被災後も使用するため高所へ移動させる



情報収集先 (P.6を参照)

- ハザードマップ 国土地理院：ハザードマップポータルサイト
- 災害情報 気象庁：キキクル(危険度分布)
国土交通省：防災情報提供センター
ウェザーニューズ：河川水位情報
- 交通情報 日本道路交通情報センター：道路交通情報Now!!
- 避難所情報 各自治体ウェブサイト

情報収集先

キキクル(危険度分布)
気象庁



防災情報提供センター
国土交通省



河川水位情報
ウェザーニュース



道路交通情報Now!!
日本道路交通情報センター



情報収集・ヘルプ発信



- 被害状況・避難所確認：各自治体HP
- グループチャット・SNSなどで情報共有
- 安否確認：災害用伝言ダイヤル(171)
- ヘルプ発信：家族・友人・知人・消防・警察・JAF

災害時連絡先

避難所

メモ

被災中は動かない

屋外に出ない

いきなり片付けを
始めない

避難する場所

- 自治体が開設した避難所
- 安全が確保できる時や緊急時は自宅(2階以上)
- 親戚や知人宅、宿泊施設
- 避難している場所を家族に共有
- 避難指示が解かれ、安全が確保できるまで避難した場所から移動しない

必要な情報の収集方法を確認

- 情報収集は、パソコン・テレビ・ラジオよりもスマホが生命線のため、バッテリー確保が重要
- SNSからの情報収集時はデマ情報に注意

友人などに応援を事前に依頼

応急処置は「依頼」から始まります。
復旧に向けて1か月で50～100人程度の
人員が必要となります。
「友人」「ボランティア」「建築会社・工務
店」「行政」「建物の保険会社」「車の保険
会社」に依頼しましょう。

被災中はむやみに屋外に出
ず、安全な場所にとどまりま
しょう。

被災中の片付けも非常に危
険です。身の安全を確保し、
情報収集に努めましょう。

安全確認



屋内 ☐ 漏電 ☐ ガス漏れ ☐ 危険物 ☐ 導線の安全確保

屋外 ☐ 重油 ☐ 汚染物質 ☐ 流れ着いたもの ☐ 飛んできたものなど

被害の記録



☐ 室内の撮影 ☐ 屋外の撮影

☐ 損失物品の記録

応急処置の準備



☐ 搬出する荷物の判断

☐ 室内の動線確保

☐ 屋外の搬出場所の確保

被災直後にまず取りかかることなど

- 窓を開けて換気
- 建物の被害状況を確認、写真撮影(片付け前に行う)
- 浸水した家具・家電などの使用可否の判別をし、
屋外への搬出は外部支援者に依頼
- 各自治体の支援状況確認

支援物資配布時間・場所

災害廃棄物受入場所

被災・罹災証明書など手続き確認

ライフラインの被害・復旧状況

- ボランティアなど支援依頼要請(窓口・支援内容確認)

安全確認について

- 濡れたコンセントは漏電や火災がおこる可能性があるため、
安全確認ができるまで使用しない
- 電気業者に漏電確認・水没コンセントの交換を依頼
- ガス業者にガス漏れの確認を依頼
- 流れてきたものに危険物がないか確認
- 家の中の破損部分を確認
- 災害後は盗難の可能性があるので、貴重品の管理に注意

被害の記録について

- 撮影・記録は必ず片付け前に行う(保険金請求や行政手続きに関係)
- 様々な角度から、できるだけ多くの写真を撮影
- 外観は四面すべて、室内は各部屋を撮影
- 水位が分かる写真は特に重要(保険金請求や罹災証明に関係)
- 家財の補償付きの保険の場合は、家財も撮影
- その他、住宅設備・家電・車など、損害を受けたものは可能な限り
撮影

応急処置の準備について

- 応急処置の方法について、マニュアルを防災サイトなどで入手し、
効率的な処置について知る
- 濡れたカーペット・畳・食料品などは廃棄
- 室内から屋外への動線確保のため、動線上の荷物を取り除き、
優先的に床を清掃
- 玄関や掃き出し窓など、上から下に降りる場所は、滑り止めとして
廃棄するカーペットなどを敷き、転倒に配慮
- 屋外の道路際と敷地内に、濡れた荷物を置いたための空間をつくる

◆応急処置に最低限必要な物品リスト

<input checked="" type="checkbox"/> 作業服	<input checked="" type="checkbox"/> ゴミ袋(45リットル)
<input checked="" type="checkbox"/> 滑止付き手袋	<input checked="" type="checkbox"/> 土嚢袋
<input checked="" type="checkbox"/> マスク(DS2相当)	<input checked="" type="checkbox"/> ブルーシート(3.6m×3.6m程度)
<input checked="" type="checkbox"/> デッキブラシ	<input checked="" type="checkbox"/> 養生シート
<input checked="" type="checkbox"/> 水切りモップ	<input checked="" type="checkbox"/> ダクトファン(直径200mm程度)
<input checked="" type="checkbox"/> バケツ(10リットル程度)	<input checked="" type="checkbox"/> 屋外用延長ケーブル(10m)
<input checked="" type="checkbox"/> 水道用ホース(10 m程度)	<input checked="" type="checkbox"/> 過電流防止機能付きケーブル
<input checked="" type="checkbox"/> 掃除用大型スポンジ	<input checked="" type="checkbox"/> 排水用水中ポンプ (床に水が溜まっている時)
<input checked="" type="checkbox"/> 中性洗剤(1リットル程度)	

被災後

自分たちでできること

水害などの災害が発生すると、社会福祉協議会が中心となり「ボランティアセンター」が開設され、被災者とボランティアをつなぐ役割を担います。「ボランティアセンター」は開設されるまで時間がかかるため、その間に自分たちでできることをやりましょう。

1

安全確保・確認



作業時にあると良いもの

- 滑り止め付き手袋 マスク
- 長袖と長ズボン、または半袖+アームカバー
- 運動靴 中性洗剤
- 10ℓ程度のバケツ数個
- 水切りモップ 床ブラシ 飲み水
- 土嚢袋(廃棄物用) 美味しい食べ物

力仕事ができなくてもできる支援例

- ・食器や衣類の洗浄
- ・食事の用意
- ・買い物やトイレへの送迎

注意事項・健康と安全

- 中学生以下の子どもは真菌類などの影響を受けやすく、心理的なトラウマも生じやすいため、復旧現場の作業に加えないでください。
 - 大人も要注意
被災直後は想像以上にストレスを受けています。感情が高ぶって動けるように感じて、すぐに疲労が出てきます。
 - 人と会話をする
 - 夜は必ず寝る
 - 無理をせず他人に頼るといった対策を行いましょう。
- また、転倒に特に注意が必要です。室内から屋外までの動線は最初に水で清掃し、必要に応じて廃棄可能な絨毯や畳を滑り止めとして使用しましょう。

2

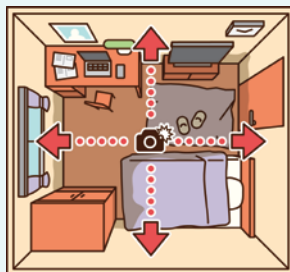
建物の撮影



長期的な観点から考えても被害の記録・保管は重要です。今後の保険金請求や行政手続きなどに関わるため、「室内の撮影」「屋外の撮影」「損失物品の記録」を行いましょう。

<撮影の基本ポイント>

- 様々な角度から撮影
- できるだけ多くの写真を残す
- 水位が分かる写真は特に重要



<室内の撮影>

- 各部屋の中央から壁四面を撮影
- 家財の補償付き保険に加入している場合、家財も撮影
- 床下の浸水状況も撮影
- 土間表面・床の断熱材・土台周辺も撮影

<屋外の撮影>

- 敷地全体を含む角度で撮影
- 建物の四面をすべて撮影

<損失物品の記録>

- 住宅設備 家電 車など
- 損害を受けたものは可能な限り撮影

3

荷物の搬出



<荷物の屋外へ搬出と分別の基本>

室内の濡れた荷物は、いち早く屋外へ搬出してください。搬出できない時は、隔離部屋をつくってください。人手が必要なため、外部支援者に応援を要請しましょう。

◆荷物の置き方の工夫

- 確実に捨てるものは、道路際に並べてください。
- 残すものや判断できないものは、自宅の敷地内に置いてください。

<濡れた荷物の廃棄・保管の目安>

24～48時間濡れていた荷物や吸水性の高いものは廃棄を推奨します。ただし、今後も再利用できるものは濡れていても保管して構いません。判断が難しい場合は、保管を優先しましょう。

◆廃棄対象の例(濡れているもの)

- 畳・カーペット ソファ・クッション
- ファン付き家電 書籍・紙類 食料品
- ◆保管の例(濡れていても再利用可能なもの)
- 家具 衣服 書類 写真

※可能であれば洗浄・消毒を行う

<作業効率と安全を高めるポイント>

- 玄関や掃き出し窓周りにはものを置かない(転倒防止・動線確保)
- 障子やふすまなど、外せる間仕切りは外す(作業がスムーズ・傷防止)
- 床を傷つけないように、玄関や窓サッシ周りに毛布などを敷く
- 玄関先やコンクリートなどで滑りやすい場所には、滑りにくい敷物を敷く

<見落としやすい場所にも注意>

- 階段下収納、洗面台下空間は忘れやすいため、扉を開けておく
- 大型家具(冷蔵庫・棚など)を屋外へ出せない場合は、清掃時に少しずつ移動して乾燥させる

4

同時進行で進めること

室内の洗浄

床下の乾燥

建物の確認と依頼(床上浸水の場合)

保険会社への連絡

室内の洗浄

水道水と中性洗剤を用い、泥水を洗い流してください。

- ホースなどで水を床にまき、水切りなどで泥水を屋外へ押し流す
- 床に中性洗剤を薄めた水をまき、広い範囲はブラシ、細かな部位は大きなスポンジでやさしくこすり、そのうえで水道水で洗い流す
- コツ・中性洗剤を薄めて使うと、泥汚れの残りが少なく、2回程度で比較的きれいになる
- ・雑巾ではなく、大きめのスポンジを使用
- ・スポンジを斜めに切ると三角形になり、隙間の清掃に役立つ
- ・雑巾で拭いて絞る方法は効率が悪く、泥が伸びるだけで3～4回繰り返す必要があるため非推奨

床下の乾燥

床下清掃は労力が大きく、生活環境に直ちに影響するわけではありません。応急処置では、床の解体は行わず、小型の排水用ポンプなどによる排水と送風による乾燥を行います。

●床を不用意に解体しない

人手が分散され、室内清掃が滞る他、床下の汚染空気が生活空間に入り込むため、床は解体しない

●ダクトファンを設置して送風を行うため、床下点検口を探す

- ・床下点検口は通常1～2か所あり、台所・洗面所・階段下収納、あるいは和室の畳の下に設置されている場合がある
- ・なければ、建築会社に依頼し、床下点検口を設ける
- ・設置位置は洗面所を推奨

●床下に水がたまっている場合は、排水用ポンプで取り除く

床下を確認して、水がたまっている場合は排水用ポンプで排水し、その後ファンを設置

カビの急速な増殖を考慮すると、水が引いた後、2～3日以内に濡れた荷物の搬出・清掃・消毒・乾燥を開始することが望ましく、現実的には1週間を目安に作業を進めると良いでしょう。

「そんなに早くできない」「知り合いがいない」という場合でも、あきらめずに作業を進めましょう。カビが増殖し、臭いが出てしまったとしても、作業はいつか終わります。とにかく室内の荷物搬出や清掃などを進めましょう。



建物の確認と依頼(床上浸水の場合)

- 建築会社
・漏電確認や給湯器・エアコンなどの動作確認を依頼し、対応方法を相談
・壁内部に水が入っていないか確認を依頼
- 電気業者
・漏電確認を依頼し、確認が完了するまで浸水階のブレーカーは使用不可
- ガス業者
・ガス漏れ確認を依頼
- 設備業者
・基本的に濡れた設備は交換を推奨
・給湯器やエアコンの交換が必要な場合は発注
・健康被害を防ぐため、エアコンは最低1台は稼働する状態を確保

保険会社への連絡

保険金額が確定すれば、その後の作業の判断がスムーズになるため、早めに連絡しましょう。また、車が水害の影響を受けると、移動手段が断たれます。修理や買い替えの判断をスムーズに行えるようにしましょう。

●保険の手続き(建物)・契約内容を確認

- ・保険会社の鑑定人が調査に来た際に、被害状況の写真や建築会社から受け取った見積書があれば提出
- ・この際に被害の記録・撮影した写真があるとスムーズ

●保険の手続き(車)

- ・契約内容の確認および保険会社(ディーラー)への連絡・手続き
- ・車は濡れると修理・購入の可能性が高くなるうえ、納車まで時間もかかるため、早めに代車を依頼

やることリスト

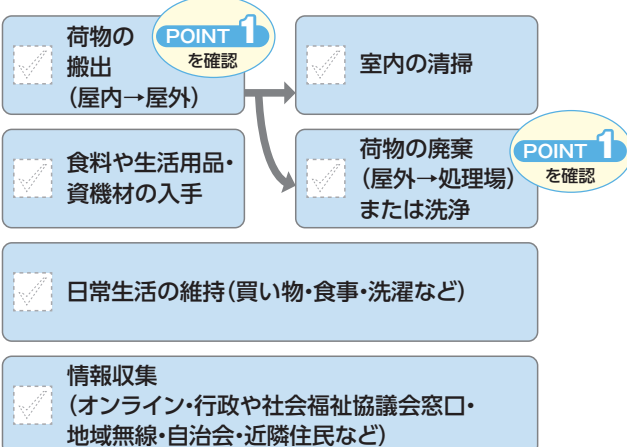
建物

生活

①

生活環境を
整える

家族・知人・友人・ボランティア



POINT 4 を確認

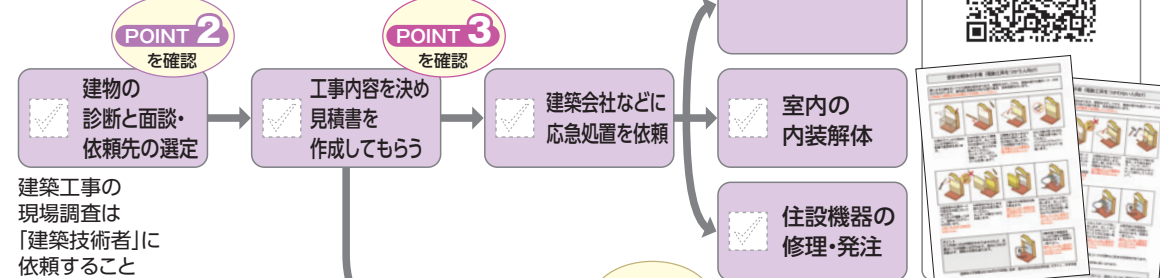
内装解体の手順の
資料はこちら



②

復旧に向けた
取り組み

建築会社・工務店・建築士・技術者 他



③

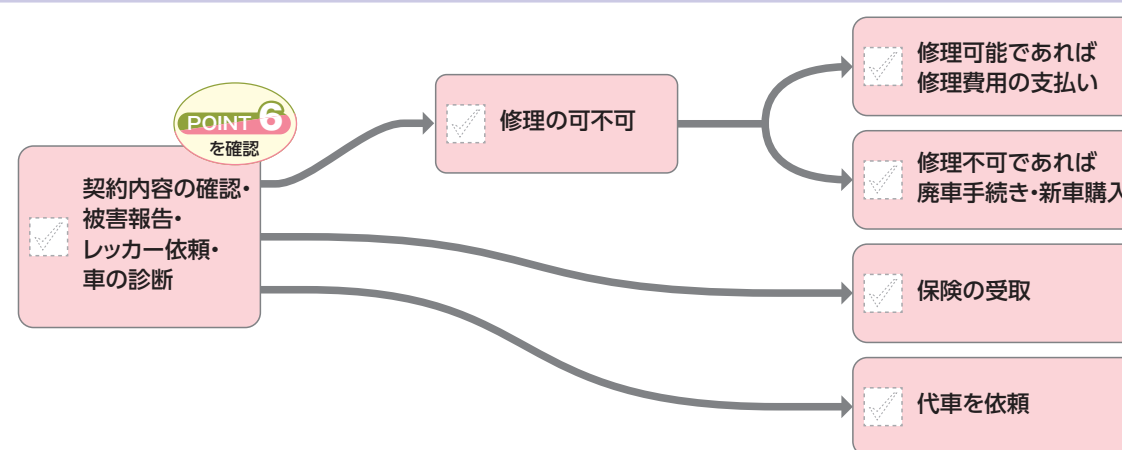
行政関係の
手続き

④

建物の保険の
手続き

⑤

車両保険の
手続き



水害発生後は、生活環境を整える必要があるだけでなく、数日でカビによる室内汚染が顕著になるため、速やかな清掃や乾燥が必要となります。また、復旧に向けて建築会社や工務店をはじめ、建物や車の保険会社などにも依頼が殺到するため、5つの「やることリスト」に「同時に取掛かる」ことが重要です。

水害後はカビ汚染が急速に進行！
カビ清掃の段取りと注意点

被災直後から数日でカビによる室内汚染が顕著になるため、建物を乾燥させる必要があります。荷物の搬出や室内清掃などに数十人規模の人員が必要になるため、知人・友人・ボランティアの方に依頼を。荷物の搬出や室内の清掃は1週間以内、応急処置は2週間～6週間の完了を目安に進めましょう。

建築会社には早めに見積りを

水害発生後は、早めに見積りを依頼し、建物の診断を受けて被害状況を把握しましょう。また、応急修理制度が開始されたら利用しましょう。この制度は、応急修理にかかる費用を自治体が家主に代わって支払うものですが、建築会社に依頼が殺到するため、早めに見積書を依頼することが重要です。なお、支払い対象となる工事には細かな決まりがあるため、自治体や建築会社と確認しながら進めましょう。

POINT 1

濡れた荷物はできるだけ早く屋外へ出しましょう。確実に捨てるものは道路際に、残すものや判断できないものは、自宅の敷地の脇に置いてください。作業量が多いため、敷地から廃棄物処理場までの運搬は住民ではなく外部支援者が行うことを推奨します。

POINT 3

建物診断を受けたら、建築会社と応急処置の具体的な内容を決め、早めに2種類の見積書を作成してもらいましょう。

- ①浸水前の状態に戻すための見積書
- 復旧工事の総額を算定してもらうことで、保険鑑定人に被害状況の説明がしやすくなるだけでなく、復旧の計画も立てやすくなります。
- ②応急修理制度を利用するための見積書
- 自治体による応急修理制度の活用にも見積書が必要です。事前に用意しておく、スムーズに申請できます。

POINT 5

被災したら、罹災証明書の申請を行いましょう。応急修理制度が利用できる場合は、罹災証明書と応急処置の見積書を準備してください。なお、復旧工事にかかる費用は、規定額までは行政から建築会社に支払いが行われるため、住民が先に支払わないようにご注意ください。その他にも様々な支援制度があるため、行政の情報を入手するようにしましょう。

<カビ清掃時のポイント>

- 使い捨てのカバーオール・滑り止め付きの手袋・踏み抜き防止インソール入りの靴を着用
- N95、DS2以上の規格に準じたマスクを着用 (不織布マスクなどはNG)
- 目はゴーグルで保護し、つば付き帽子で上からのほこりの侵入を防ぐ
- 床が弱い場合は合板で補強
- 作業後は速やかに体と目を洗う
- アレルギーや持病のある人・体調不良の人・子ども・妊婦は作業を避ける
- 作業後の作業服はビニールなどに入れて別にし、洗濯は個別で行う



POINT 2

自治体の制度や建物の保険の手続きを進めるには、まず建築会社などによる建物診断を受け、応急処置の見積書を作成してもらう必要があります。応急処置の具体的な内容は、住民だけで適切に判断するのが難しいため、建物診断の結果をもとに、効果的な処置を判断することが重要です。ただし、水害発生直後は建築会社への依頼が殺到します。事前にリストアップしておいた建築会社などに、速やかに連絡するようにしましょう。また、災害に便乗した悪質商法には十分注意してください。

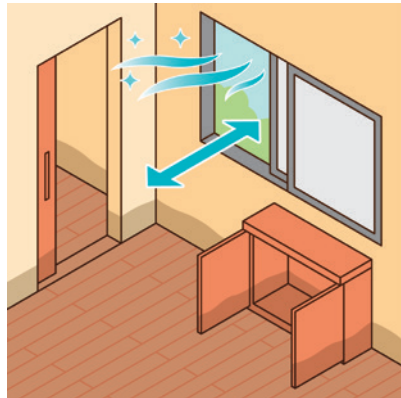
POINT 4

応急処置の段階で床を解体することは、室内の空気汚染や生活の不便などが生じるため推奨しません。内装解体を優先してください。一部の作業は建築会社でなくてもできるため、知人や友人と協力して進めましょう。

POINT 6

保険会社の鑑定人に被害状況を伝えましょう。復旧工事にかかる総額の算定があれば、参考資料として提出することが大切です。また、車が水害の影響を受けると、移動手段が断たれます。車の保険会社にも連絡し、車の診断やレッカーでの移動、買い替えの判断などをスムーズに行えるようにしましょう。

室内の清掃



濡れた荷物は速やかに屋外へ搬出する必要があります。
作業は「部屋から玄関を通して屋外へ」または「部屋から掃き出し窓を通して屋外へ」という流れで行いましょう。

搬出

- 分別には時間がかかるため、まずは屋外への搬出を優先
- 障子やふすまなど外せるものは外す
- 廃棄するものは道路際に、その他は敷地の脇に並べる
- 玄関周りや窓サッシに毛布などの敷物を敷くと搬出がスムーズ
- 忘れやすい階段下収納や洗面台下空間は、扉を開けておく
- 床表面の清掃・乾燥・消毒を速やかに行う

清掃

- 清掃は、ホースで水道水を流しながら泥を屋外へ押し流す方法が効果的
- ホースは長さ約10mが扱いやすい
- ブラシを使って床の泥を掃き出す
- DIYや建築用の大型スポンジを斜めに切って三角形にすると細部の清掃に便利
- バケツは複数個活用
- バケツの水に液体の台所用洗剤または洗濯用洗剤を適量加えて床に散布（雑巾は使わない）



床下空間の清掃



床下の表面が乾いたら、床下の清掃と消毒を行います。

掃除機でほこりやカビ胞子を吸い取る

- 基本的には微細な粒子も捕集できるHEPAフィルター付き掃除機を推奨
- 屋外に一般的な掃除機を配置し、約10mのホースを接続して使用することで、室内へのほこりやカビ胞子の拡散を防げる

消毒

- 清掃後に消毒液を散布
- 手でスプレーするより、電池式の散布機を使用すると作業がスムーズ
- 消毒液は、希釈や拭き取りの必要性などを確認してから使用

※以前は床下に石灰をまく方法もありましたが、現在は非推奨

壁の清掃

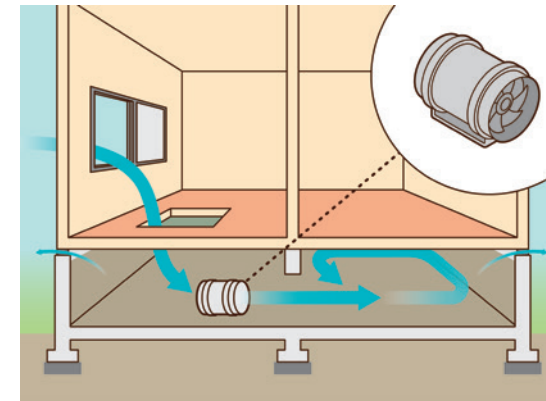


壁内部に水が入ると、1～2週間でカビが目立つようになります。水の浸入が確認された場合は、壁の部分解体・清掃・乾燥を行いましょう。
ただし、2006年9月以前に建築された住宅では、建材にアスベストが含まれている可能性があり、専門家による事前調査が義務付けられています。2006年9月以降に建築された住宅は以下の手順で壁の解体や清掃を進めましょう。

- 床を養生（持ち運びがしやすいシートやマットを推奨）
- 壁に切断ラインを書き、巾木（壁の下板）を外して壁をカット
- 壁紙・石膏ボード・板材・断熱材を取り外す
- スポンジとバケツで壁内部を清掃

※土壁の場合は、作業量が非常に多いため、解体せず、他の作業を優先する

床下の排水と乾燥



床下清掃は労力が大きいという、生活空間に直ちに影響するわけではありません。応急処置では床の解体は行わず、小型の排水用ポンプなどでの排水と送風による乾燥を行います。
ダクトファン設置の手順は下記の通りです。

ダクトファン

- 床下点検口を1か所開け、土間面に直径200mm程度のダクトファンを設置
- ファンは人通口（人が通れる程度の穴や通路）に向けて配置
- 濡れていないコンセントから電源を確保
- 必要に応じて延長ケーブルや過電流遮断機能付きタップを使用

※ダクトファンは運転音が大きいため、生活の中心から離れた場所で運転することが望ましい

換気

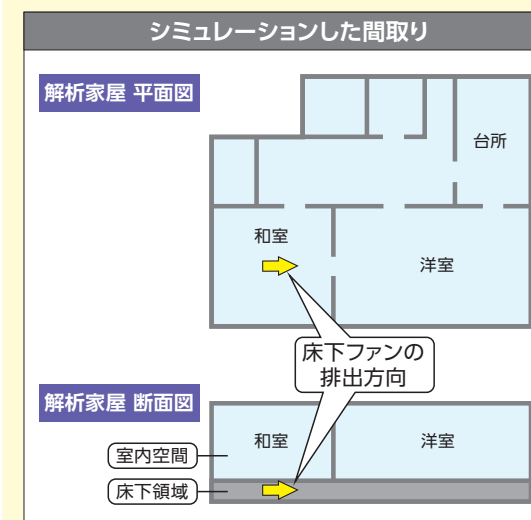
- 床下点検口近くの窓を開け、風の通り道を作る
- 屋外の空気が床下に入り、床下換気口から排出されるようにする
- ティッシュを使うと気流の方向が確認しやすい

※ファンの向きや配置が悪いと、床下の空気が室内に逆流することがあるため、向きを直すか換気口の一部をふさいで調整する

床下乾燥の良い例・悪い例

むやみに床の解体を行うと、床下の汚染空気が生活空間に滞留する原因になります。
良い例・悪い例を参考に、効率的な乾燥方法を確認しましょう。

シミュレーション動画で
空気の流れを
ご覧いただけます。



良い例

和室床面は
そのまま

床下ファンの
排出方向

床下で空気が循環し
乾燥する

床を解体せず、小さな穴だけを開けて床下にダクトファンを設置します。床下内部だけで空気が循環するため、生活空間への汚染空気の侵入を防げます。

悪い例

和室床面を
全面開口

床下ファンの
排出方向

一部分の床を解体してダクトファンを動作させると、床下の汚染空気が生活空間に広がります。

悪い例

和室床面を
一部開口

床下ファンの
排出方向

空気の流れを作ると、さらに別の部屋の床を解体しても、床下の空気は生活空間に長時間滞留し、汚染空気の侵入が広がります。

滞留時間
長
短

滞留時間
長
短

廃棄



荷物の搬出は「室内から敷地内へ」「敷地内から廃棄物処理場へ」の2段階で行いますが、廃棄物処理場や仮置き場の開設には時間がかかります。室内での作業を優先し、廃棄物の運搬は外部支援者に任せましょう。

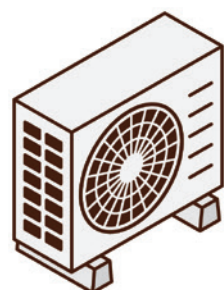
屋外空間の清掃



屋外は生活空間ではないため、まずは作業動線の確保だけを行います。建物内部の作業を優先し、屋外の清掃は外部支援者に相談しましょう。

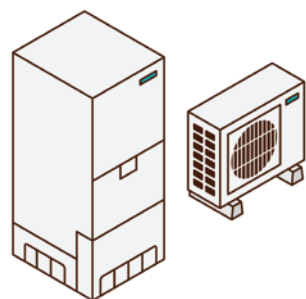
設備機器など

エアコン



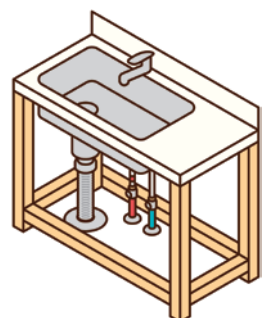
室外機が水没した場合は、メーカーに動作確認を依頼し、復旧の見込みがなければ新規発注を行いましょう。少なくとも1台のエアコンが稼働できるようにしましょう。

給湯器



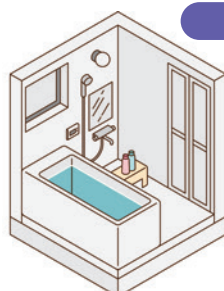
給湯器の室外機が水没した場合は、メーカーに動作確認を依頼し、復旧の見込みがなければ新規発注を行います。給湯器は家事や入浴などに大きく関わるため、早めに使用できる状態を整えましょう。

台所



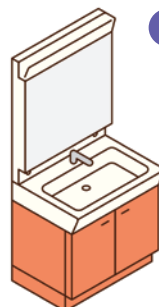
水に濡れた箇所はカビの発生や変形が生じやすいため、台所を一度解体し、天板と水道配管を残してその他の部分を清掃・保管しましょう。その後、木材で簡易的な台を作ること、自宅避難中でも台所を使用できます。

風呂



風呂も自宅避難中に使用するため、可能な範囲で清掃を行うことが基本です。

洗面台



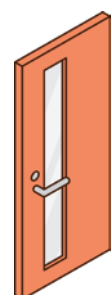
洗面台の下には数センチの台が設置されていることが多いので、台の下の清掃漏れに注意。また、天板と配管を活用して仮設の洗面台を設置し、自宅避難中でも基本的な機能を確保しましょう。

造作棚



玄関収納やキャビネットなど、壁に接合された棚は、基本的に解体することを推奨します。解体しないと、壁の部分解体が制限され、カビや湿気による被害が広がる恐れがあります。

インテリアドア



インテリアドアは、水害後に変形して開閉が困難になることが多いので、応急処置段階では解体を避け、清掃と乾燥に努めましょう。ドアの位置調整機能がある場合は乾燥後に調整を試みてください。

建築技術者の皆さんもチェック!

つまずきやすい作業や手続き関係をおさらい

建築技術者と被災者の作業分担

建築技術者の皆さんへ

建築技術者は、避難生活を踏まえて安全な環境を整えるため、床下や壁内部の診断、解体部位のアスベスト判定、作業項目と工事範囲などの建物診断を行ってください。また、水害時は人手が足りないため、非建築技術者の協力も検討し、作業を割り振ってください。

被災者の皆さんへ

建築会社や行政申請、保険会社（建物と車）の連絡を優先してください。平行して、荷物搬出や室内清掃を急ぎましょう。

建物診断

建築技術者の皆さんへ

建物診断は、災害時に公益の観点から建築技術者が担当しましょう。建築会社だけに任せると、対応に限界があるため、建物診断と応急処置の作業を分離し、受注できるもののみ見積書を発行します。

被災者の皆さんへ

建物診断は、応急処置から復旧工事に速やかに進むために早めに依頼することが重要です。依頼範囲は目視できる箇所だけでなく、床下や壁内部も対象にしましょう。

見積書の内容と行政・保険の手続き

建築技術者の皆さんへ

見積書は応急処置と復旧工事の2種類を作成することを推奨します。応急修理制度の申請書類を事前に準備し、在庫単価一覧を整理しておきましょう。災害救助法の適用可否は不明のため、行政のウェブサイトで確認し、制度決定後に速やかに提出できるように準備を進めましょう。

被災者の皆さんへ

建築技術者に応急処置と復旧工事の2種類の見積書を依頼してください。応急処置の見積書は、各種申請に必要です。復旧工事の見積書は、復旧計画の立案に役立ちます。

応急処置の完了判断のための建物診断と復旧工事

建築技術者は、応急処置中は適宜、送風機の調整・乾燥手順の確認をするようにしてください。応急処置の最終的な完了判断は、木材の含水率計で判断します。床下・壁の乾燥状態を確認し、乾燥が十分に進んだと思われる時期に含水率計で測定してください。木材の含水率の目安は、25%以下です。数値を住民に見せて判断してもらいます。

復旧工事に先立ち、建物に残ったダメージ確認をしてください。特に床・設備機器・家具について住民に説明してください。そのうえで各設備機器の修理・交換を判断してもらってください。

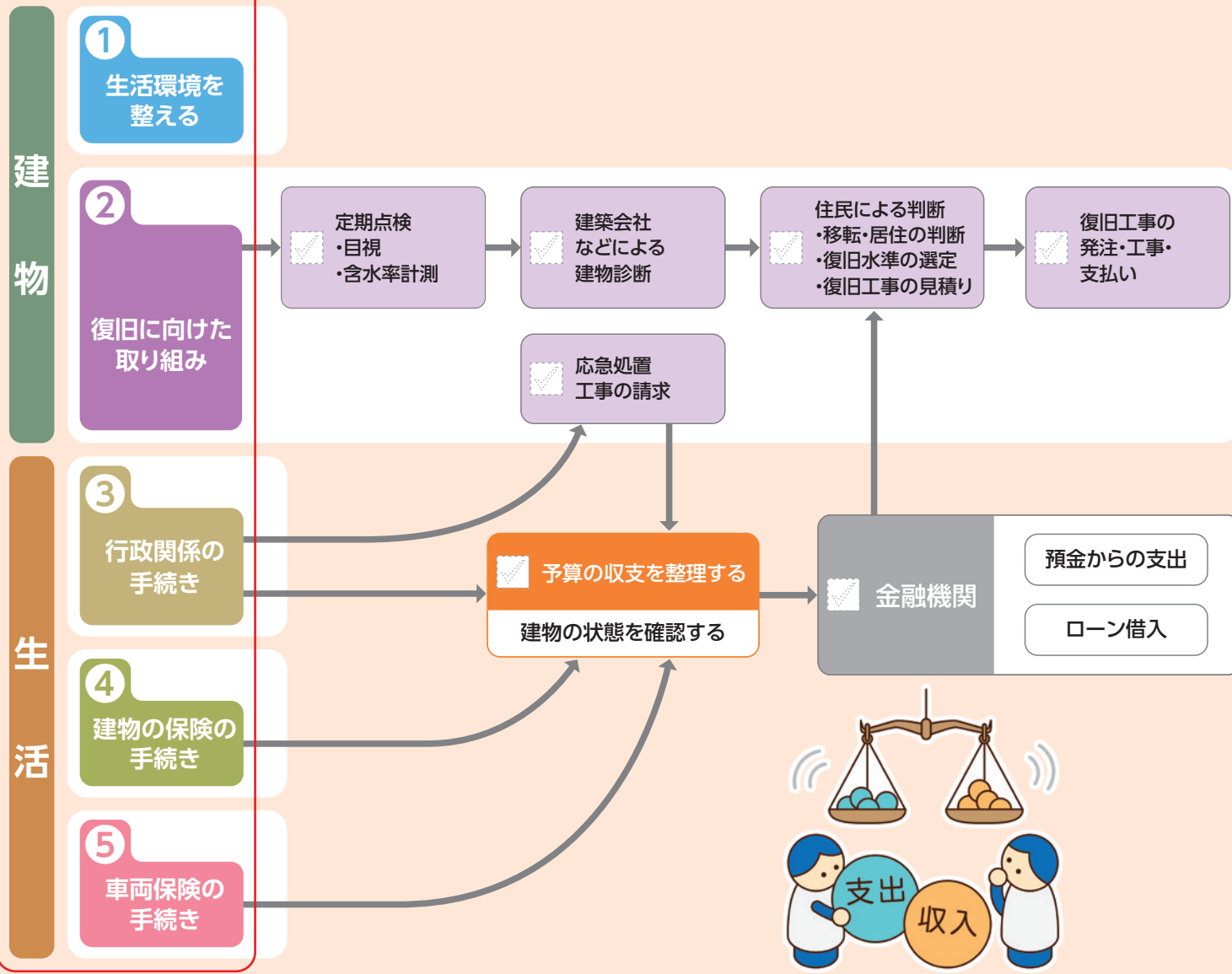
行政支援と保険の収支整理

行政からの災害支援および建物の保険・車両保険の給付金は、被災者にとって収入に該当します。一方で、避難生活費用や家財・車の購入は支出となります。これらを早めに整理することで、復旧工事の内容や水準、風呂やキッチンの新調などを具体的に決定する助けになります。

車の保険

水害によって車本体が濡れた場合は、保険会社やディーラーに連絡し、修理または廃車の手続きを行います。

やることリスト



応急処置の完了判断のための建物診断と復旧工事の依頼

応急処置後は、建築会社などに再び建物診断を依頼し、今後の方針を相談しましょう。
建て替えや売却が必要なのか、修繕やリフォームで住み続けられるのかを判断し、復旧する場合は、見積書を依頼し、復旧水準も検討します。
方針が決定したら、工事の発注と支払いを済ませましょう。

収支整理

行政や保険会社から支給される金額と、建築会社などへ支払う金額を整理し、予算の収支を整理しましょう。
収支整理により、復旧工事の内容や水準を決定する際の助けとなります。
下記のガイドラインも参考にしながら、すばやい復旧を目指しましょう。

参考となるガイドライン

「実体験から学ぶ!水害対策最前線」
信州大学 中谷岳史先生

本冊子の内容を動画で詳しく解説しています。
※一部、建築会社向けの内容があります

出典:グラウンド・ワークス(株)YouTubeチャンネル

「被災者支援に関する各種制度の概要」
内閣府

被災者支援制度の冊子が閲覧できます。
制度利用の条件などを確認したい時に役立ちます。

「災害救助法の適用状況」
内閣府

最新の災害救助法適用地域を確認できます。
適用地域になると、応急修理制度などの申請が可能になります。

復旧工事にかかる費用のケーススタディ

修理の出費を減らすコツ

応急処置は慎重に

床上浸水の復旧費用は一般的に600万円程度となります。
費用増の主要因は床・壁・風呂・キッチンの4項目です。

<費用低減の考え方>

以下の工夫により、600万円台から200万円台への低減を目指します。

風呂・給湯器	継続使用も検討し、交換する時は予算確認
床	解体範囲を最小限にする
壁	浸水部分のみ部分交換
キッチン	グレードを下げて予算調節

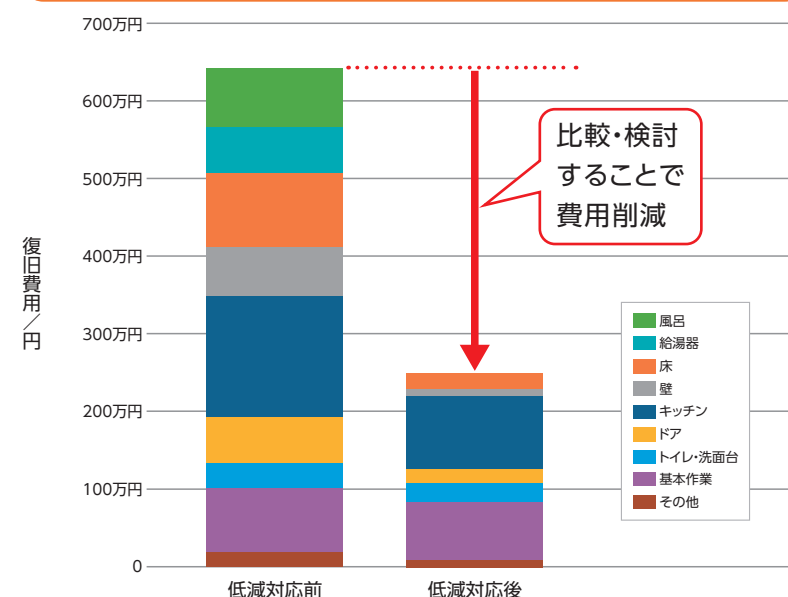
項目	費用の比較		削減費用/円
	検討前/円	検討後/円	
合計	6,420,000	2,510,000	-3,910,000
風呂	750,000	0	-750,000
給湯器	600,000	0	-600,000
床	950,000	200,000	-750,000
壁	630,000	100,000	-530,000
キッチン	1,560,000	940,000	-620,000
ドア	590,000	170,000	-420,000
トイレ・洗面台	330,000	250,000	-80,000
基本作業	820,000	740,000	-80,000
その他	190,000	110,000	-80,000

風呂や給湯器は継続使用ができる場合、費用は0円に

ダクトファンによる乾燥をすることで床だけでなく壁の解体費用も削減できる可能性あり

グレードを比較・検討することで、費用削減につながる場合も

費用の比較



各ケーススタディの
復旧費用は目安です。

費用を抑える3つのポイント

復旧範囲を検討する

必要な箇所だけを復旧することで、不要な工事を避け、費用を抑えられます。
特に応急処置段階で壁や床を積極的に乾燥させると、全解体を避けられ、復旧範囲を最小限にできる場合があります。

継続利用できるものは事前に確認する

問題なく使用できる設備はそのまま利用することで、費用削減につながります。

グレードを比較する

同じ設備でもグレードを見直すことで、必要以上の支出を防ぐことができます。

被災時に役立つ荏原の製品

水害からの早期復旧へ：

ポンプや送風機などで現場の「安心」と「効率」をサポート

復旧活動には、迅速な排水・衛生環境の確保・電源供給など多岐にわたる支援が求められます。

荏原のポンプや送風機・スポットエアコンなどは、現場の作業効率を高め、二次災害の防止にも貢献します。復旧ボランティア・社会福祉協議会・NPOなど多くの方に活用いただける、実用性と信頼性に優れた製品群を取り揃えています。

荏原製品に関する詳細はこちら

建機製品（現場向け）について



製品ハンドブック



総合問い合わせ



※掲載されている情報は、予告なく変更されることがあります
最新情報はお問い合わせください

換気・乾燥

ポータブルファン
（APMS型）



角度調整が容易で、空間内を効率良く換気、給気、排気します。軽量でコンパクトなため、吊り下げ設置や狭所設置も可能です。熱中症や感染症対策にもご利用いただけます。

除湿

ドライワゴン
（DW型）



あらゆる現場の「除湿」に対応。コンパクトで持ち運びやすく、湿気対策に最適な除湿機です。

空調（可搬式ドライクーラ）

テンパシス
（CD12V型）



大規模避難所・建設工事現場・各種工場・体育館・仮設テント・イベント会場など、あらゆる空間の熱中症対策に貢献します。

排水

排水用水中ポンプ
（EZ型）



雨水・底水の排水に対応する小型軽量ポンプ。優れた耐摩耗性・耐久性を備え、始動水位の調整が可能な自動運転タイプもラインナップ。

排水

残水排水用水中ポンプ
（EZQ型）



水位1mmでも排水するポンプ。軽量・高耐久で多用途に対応し、保護機能も備えています。

排水

残水排水用自吸ポンプ
（EBQ型）



水位1mmでも排水するコンパクトな自吸式ポンプ。狭所での残水排水にも対応。軽量・高耐久で多用途に対応し、保護機能も備えています。

空調（スポット式クーラ）

クールワゴン
（CW型）



パワフルなスポット冷房により、生産ラインや厨房などの温度が上がりやすい場所、一時的な冷却手段が必要な場所の局所冷房に適しています。広すぎる空間でのスポット冷房としても役立ちます。

空調（エアコン）

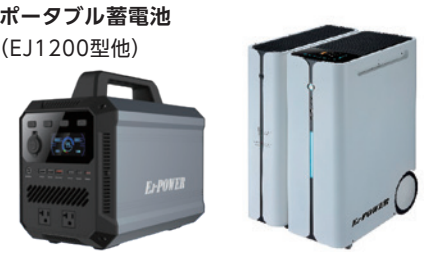
スポットエアコン
（DAC4型）



冷房・暖房の両方に対応し、大風量で1台で広い空間をカバー。キャスター付きで移動も容易です。大空間向けスポット空調として、省エネ・省コストを実現します。

電力供給

ポータブル蓄電池
（EJ1200型他）



非常時やアウトドアの電源確保に役立つポータブル蓄電池。一家に1台、いざという時の安心に。太陽光パネルや車からも充電可能です。増設も可能です。（荏原実業製）

排水

ウェットクリーナ
（CLP2型）



水と空気を同時に吸い込み、底にたまった水や平面のたまり水、廃油の混入液も排出可能。100V電源で使用でき、車輪付きのため移動も容易です。

泥水吸引

ミニバキューム
（CLV3型）



砂利や小石を含む泥水もスピーディーに吸引・排出可能。ボタン1つの簡単操作で液体吸引とタンク排水を同時運転できます。ポンプが入らない現場や浸水被害時にも最適です。

泥水吸引

ULPAフィルタ搭載クリーナ
（CLVF型）



ULPAフィルタ付きでカビ対策にも効果的。壁解体時にも活用できます。

給水

浅井戸用インバータポンプ
（HP型シリーズ）



浅井戸・深井戸・加圧給水に対応するポンプ。設定圧力の選定や安全設計・省エネ・低騒音など、用途に合わせてご利用いただけます。

保冷・蓄冷

フリーザ
（UDF4型）



専用の蓄冷剤を使用することで、既存のクールバッグやクールコンテナでもドライアイスなしで長時間の保冷が可能。（目安：48時間-60℃以下）

「〇〇型」の表示は当社または荏原実業（株）の機種記号です。

荏原製品の活用事例

排水



残水の排水に

残水排水用水中ポンプ（EZQ型）

除湿



室内除湿・乾燥に

ドライワゴン（DW型）

空調（エアコン）



大空間の暑さ・寒さ対策に

スポットエアコン（DAC4型）

乾燥など



乾燥・換気・給気・排気に

ポータブルファン（APMS型）

空調（スポット式クーラ）



熱中症対策に

クールワゴン（CW型）

電力供給



突然の停電や電力確保が難しい時に

ポータブル蓄電池（EJ-P3K型/EJ-P25B型）

給水



断水時や水供給が困難な時に

給水ポンプ（HP型シリーズ）

動線確保



濡れた荷物は速やかに屋外へ搬出する必要があります。
玄関周りや窓サッシに毛布などの敷物を敷くと搬出がスムーズに進みます。

畳廃棄



畳は濡れると急速にカビが発生するため、廃棄してください。

濡れた家財道具の搬出



濡れた家財道具は屋外へ搬出します。確実に捨てるものは道路際に、残すものや判断できないものは、自宅の敷地内に置きます。そのうえで室内作業を優先してください。

床下排水



床下に水がたまっている場合は、小型の排水用ポンプで排水をしてください。
床を解体する際は範囲を最小限にし、汚染空気が生活空間に入らないようにしましょう。

床下にダクトファン設置



床下点検口を1か所開け、床下の土間に小型ダクトファンを設置し、基礎の通気口に向けて配置します。点検口がない場合は建築会社に依頼してください。設置場所は個室や洗面所など音が気にならない部屋が適しています。

床下乾燥



床下は乾燥後に清掃します。ダクトファンで送風すると1～2か月で泥が乾燥します。乾いた泥は掃除機で除去します。

室内床清掃



床は中性洗剤を薄めた水を散布し、ブラシやスポンジで清掃してください。雑巾は汚れが伸びるだけで拭き取れないので使用を控えてください。

壁内部の清掃



建築会社に壁内部の状態を診断してもらい、内部が濡れている場合は壁材と断熱材を取り外し、清掃・乾燥します。

床のクッションフロアの除去



ビニール製のクッションフロアは床板の乾燥を妨げます。カッターで切り込みを入れ、手で引っ張りながら取り外しましょう。